

令和 5 年 6 月 11 日現在

機関番号：10102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K13117

研究課題名（和文）スポーツ指導場面における指導者との信頼関係が学習者の運動有能感認知に与える影響

研究課題名（英文）Influence of the coach athlete relationship on athletes exercise competence in sports coaching settings

研究代表者

安部 久貴（AMBE, Hisataka）

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：40634556

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究より、高頻度で称賛を受けていると認識していた学習者ほど、指導者に対して好意を持ち、情緒的な親密さを強く認識しており、指導者からの指導に対して全力で応えようとする協力的な相補性が高いことが明らかになった。一方で称賛の言葉がけを受けていると認識している学習者ほど、サッカーに対して高い競技意欲を示すことも明らかになったことから、指導者からの称賛の言葉がけは、学習者が認識する指導者との関係を肯定的なものへと変容させ、サッカーに対する競技意欲を高める可能性があることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、スポーツ指導者の指導行動の見直しが求められており、運動部活動でのガイドラインでは学習者の意欲や自主性を促すための効果的な指導法として、指導者と学習者間のコミュニケーションの充実が挙げられていた。しかし、効果的な指導に必要な指導者のコミュニケーション能力の未熟さが課題として指摘されていた。

そのような現状の中、本研究を通じて、指導者からの称賛の言葉がけが、学習者の認識する指導者との関係を肯定的なものへと変容させ、サッカーに対する競技意欲を高め得ることを明らかにしたことは、学術的にも社会的にも意義のあることだといえる。

研究成果の概要（英文）：From this study, athletes who recognized that they received praise more frequently had more favorable feelings, closer and more committed relationship towards their coaches. On the other hand, it was also revealed that athletes who recognized that they have been praised showed a higher motivation to play soccer. According to the results, it has seemed that feedbacks of praise transform the better coach athlete relationship and increase athlete motivation of playing soccer.

研究分野：スポーツ心理学

キーワード：指導者－学習者関係 言葉がけ サッカー 中学生 部活動

1. 研究開始当初の背景

近年、スポーツ指導者の指導行動の見直しが求められており、運動部活動でのガイドライン(文部科学省, 2013)では学習者の意欲や自主性を促すための効果的な指導法として、指導者と学習者間のコミュニケーションの充実が挙げられている。その一方で、効果的な指導に必要な指導者のコミュニケーション能力の未熟さが課題として指摘されている。

学校教育の一環として実施されている運動部活動は、生徒が主体となって取り組む活動であるため、そこでの効果的な指導とはガイドラインにもあるように生徒の意欲や自主性を育む指導であると言える。心理学分野では、行動の中に報酬が内在しているかたちの動機づけである内発的動機づけの本質は、自己決定と有能さの認知であると言われている(デシ, 1985)。言い換えれば、自分たちで工夫して練習し、技能を向上させていくことによって、学習者はスポーツの魅力に惹きつけられ、プレーすること自体が目的である内発的動機づけがより強まっていくと考えられている。つまり、学習者の意欲や自主性を育み得る効果的な指導法とは、スポーツに対する内発的動機づけやその主要構成要因である運動有能感を強化させ得る指導法のことであると考えることができる。

内発的動機づけや有能感と指導法との関係については、質問紙による調査が行われている。たとえば、Black and Weiss (1992) は、選手の認知している指導からのフィードバックと有能感水準の関係性について検討し、パフォーマンス成功時における高頻度の称賛やそれら称賛と教示的フィードバックの組み合わせ、およびパフォーマンス失敗時における高頻度の励ましやそれら励ましと教示的フィードバックの組み合わせが、より高い水準の有能感認知と関連していることを明らかにしている。また、Amorose and Horn (2000) は、指導者からの称賛や励ましといったフィードバックの頻度を高く認知している選手ほど、高い内発的動機づけを示す一方で、注意や叱責といったフィードバックの頻度を高く認知している選手は、低い水準の内発的動機づけを示すことを明らかにしている。さらに最近の研究(松井, 2014)では、称賛や励ましといったフィードバックの認知のみならず、叱責などのフィードバックの認知も指導者と選手の親和的信頼関係が築けている場合には、内発的動機づけの強化に作用する可能性があることが示唆されている。さらに、指導者からの称賛や励ましといったフィードバックの認知が、指導者と選手の間での親和的信頼関係構築に有効である可能性も示唆されている。

2. 研究の目的

本研究では中学校の部活動でのサッカー指導場面において学習者の抱く指導者との信頼関係を定量化したうえで、指導者から学習者に対して発せられるどのような言葉がけが、指導者と学習者の信頼関係構築に有効なのかについて検討することを目的とした。さらに、学習者が指導者に対して抱く信頼感が学習者のサッカー有能感に影響を与える可能性についても検討した。

3. 研究の方法

(1) 学習者の認識する指導者との関係

Jowett & Ntoumanis (2004) の「コーチと競技者間の人間関係」(CART-Q)を用いて指導者と学習者の関係性について評価した。CART-Qの測定項目は11項目で構成されており、その内訳は「関わり」に関する3項目、「親密さ」に関する4項目、「相補性」に関する4項目であった。調査対象者に対して、各質問項目に1(まったく当てはまらない)から7(きわめて当てはまる)までの7段階評定で回答を求めた。

(2) 指導者の言葉がけの認識

松井(2014)が作成した指導者のフィードバック行動に関する項目を参考に、サッカー用に修正して測定した。「称賛励まし」、「叱責」、「無視」の3因子16項目で構成されており、各質問項目に対して5件法(全くあてはまらない:1点~とてもよくあてはまる:5点)での回答を求めた。

(3) サッカー有能感尺度

安部ほか(2018)が作成した、ユース年代版 サッカー有能感尺度を用いて調査対象者のサッカーに関する有能感について評価した。この尺度は、「状況に応じたパス&コントロール技能」14項目、「スピード」4項目、「競技意欲」4項目、「持久力」4項目、「ドリブル技能」4項目、「ヘディング技能」4項目、「守備技能」5項目、「力強さ」5項目、「リーダーシップ」3項目の合計9因子47項目で構成されていた。各質問項目に対して7件法(全くあてはまらない:1点~非常によく当てはまる:7点)で回答を求めた。

4. 研究成果

(1) 学習者と指導者の関係性と学習者の認知する指導者からの言葉がけの関連性

学習者と指導者の関係性と学習者の認知する指導者からの言葉がけの関連性について相関分析を用いて検討した。その結果、指導者とより親密で深く関わっていると認識している学習者の

方が、指導者からより多くの称賛を受けていると認識していることが明らかになった。また、指導者に対して好意を持ち、情緒的な親密さを強く認識しており、指導者からの指導に対して全力で応えようとする協力的な相補性が高い学習者の方が、指導者から無視されることが少なく、かつ多くの称賛を受けていると認識していることが明らかになった。

表 1. 学習者と指導者の関係性と学習者の認知する指導者からの言葉がけの関連性

	関わり	親密さ	相補性	関係性合計
称賛	.682**	.552**	.543**	.669**
叱責	-0.172	-0.264	-0.267	-0.259
無視	-0.248	-.380**	-.608**	-.445**

** : p < .01

(2) 指導者の言葉がけと学習者のサッカー有能感の関連性

続いて、指導者の言葉がけと学習者のサッカー有能感の関連性について相関分析を用いて検討した。その結果、言葉がけのうち叱責を受けていると認識している学習者ほど、サッカーに関する自身の有能感を低く評価する可能性があることが明らかになった。加えて、称賛の言葉がけを受けていると認識している学習者ほど、サッカーに対して高い競技意欲を示すことが明らかになった。

表 2. 指導者の言葉がけと学習者のサッカー有能感の関連性

	ボールコントロール	スピード	意欲	持久力	ドリブル	ヘディング	守備	力強さ	リーダーシップ
称賛	0.147	0.243	.273*	0.095	0.221	0.205	0.049	0.028	0.254
叱責	-.303*	-.397**	-.406**	-.297*	-.327*	-.289*	-.361**	-0.251	-0.146
無視	0.075	0.005	-0.148	-0.248	-0.121	0.055	-0.033	-0.049	-0.092

* : p < .05 ** : p < .01

(3) 学習者が指導者に対して抱く信頼感が学習者のサッカー有能感に影響を与える可能性

本研究より、指導者に対して好意を持ち、情緒的な親密さを強く認識しており、指導者からの指導に対して全力で応えようとする協力的な相補性が高い学習者の方が高頻度で称賛を受けていると認識していたことが明らかになった。一方で称賛の言葉がけを受けていると認識している学習者ほど、サッカーに対して高い競技意欲を示すことも明らかになったことから、指導者からの称賛の言葉がけは、学習者が認知する指導者との関係を肯定的なものへと変容させ、サッカーに対する競技意欲を高める可能性があることが明らかになった。

指導者の叱責の言葉がけの認識については、指導者との関係については明らかな関連性は示さなかったが、サッカーに関する有能感については、負の相関、つまり叱責を受けていると認識している学習者ほど、サッカー有能感を低く評価する可能性があることが明らかになった。本研究で分類した指導者の叱責の言葉がけには、否定的な表現ながらプレーの修正情報を含んだ内容の項目も含まれていた。前述したように、松井(2014)は、指導者と選手の親和的信頼関係が築けている場合には、叱責などのフィードバックの認知も内発的動機づけの強化に作用する可能性があることを指摘していることから、叱責の因子の項目に対する受け取り方に個人差による違いがあり、指導者との関係性との明確な関連性が確認されなかったと考えられる。

5. 研究の限界点

本研究は本来であれば質問紙を用いた横断調査ではなく、指導行動の観察を含んだ縦断研究を行う予定であった。しかしながら新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、実際の指導現場に入っただけの縦断研究の実施ができなかったため、最終的には質問紙を用いた横断調査での検討になってしまった。横断調査では関係性しか検討できないため、今後は「学習者と指導者の関係性と実際の指導者から学習者への言葉がけの関連性」や「実際の指導者の言葉がけと学習者のサッカー有能感の変化の関連性」について縦断的な研究を行う必要がある。

参考文献

安部久貴・村瀬浩二・落合優・射手矢岬・鈴木直樹(2018)指導者の言葉がけがユース年代の選手のサッカー有能感に与える影響. 体育学研究, 63: 87-102.

Amorose, A. J. and Horn, T. S.(2000)Intrinsic motivation: Relationships with collegiate

- athletes' gender, scholarship status, and perceptions of their coaches' behavior. *Journal of Sport and Exercise Psychology*, 22, 63-84.
- Black, S. J. and Weiss, M. R. (1992) The relationship among perceived coaching behaviors, perceptions of ability, and motivation of in competitive age-group swimmers. *Journal of Sport and Exercise Psychology*, 14, 309-325.
- デシ：石田梅男訳 (1985) 自己決定の心理学 内発的動機づけの鍵概念をめぐって. 誠信書房, 東京.
- Jowett, S. & Ntoumanis, N. (2004) The coach-athlete relationship questionnaire (CART-Q): development and initial validation, *Scand. J Med. Sci. Sports*, 14: 245-257.
- 松井幸太.(2014)高校運動部活動における生徒の内発的動機づけ 指導者のフィードバック行動および生徒と指導者の関係に対する生徒の認知からの検討 . *スポーツ心理学研究*, 41: 51-63.
- 文部科学省.(2013)運動部活動の在り方に関する調査研究報告書～一人一人の生徒が輝く運動部活動を目指して～. http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 安部 久貴, 村瀬 浩二, 落合 優, 射手矢 岬, 鈴木 直樹	4. 巻 63
2. 論文標題 指導者の言葉がけがユース年代の選手のサッカー有能感に与える影響	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 体育学研究	6. 最初と最後の頁 87-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5432/jjpehss.17025	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 安部 久貴, 見原 一步
2. 発表標題 高校年代のサッカー競技者と指導者の信頼関係に影響を与える要因の検討
3. 学会等名 日本運動・スポーツ科学学会 第26回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安部 久貴
2. 発表標題 指導者と競技者の信頼関係ならびにその信頼関係の前提条件と結果の検討
3. 学会等名 日本体育学会 第70回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安部 久貴
2. 発表標題 男子中学生サッカー選手が認知する指導者の「言葉がけ」に影響を与える要因の検討
3. 学会等名 日本運動・スポーツ科学学会 第25回大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------